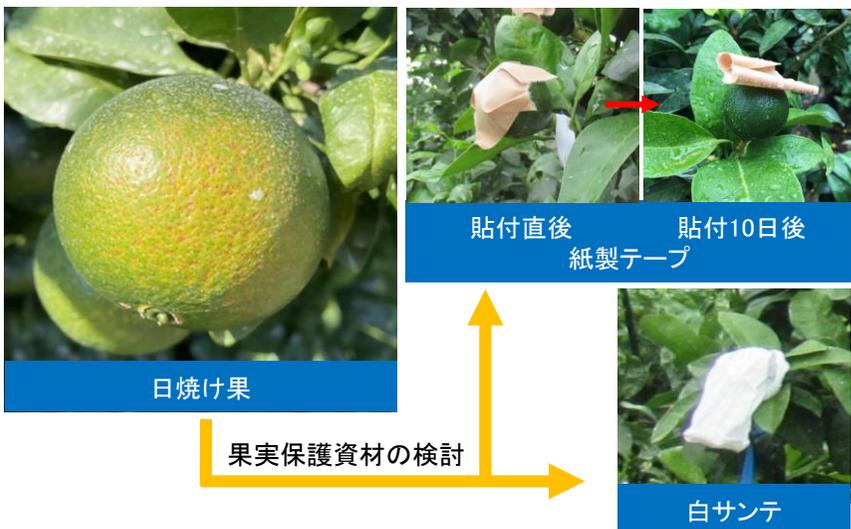


‘愛媛果試第48号’の栽培上の留意点

愛媛果試第48号は日焼け果が発生しやすいが、果実保護資材の活用により軽減することが可能。また、収穫時期が遅く寒害の危険性が高いため、果実の凍結が懸念される地域では露地栽培を避ける。

日焼け果の発生と果実保護資材の活用



果実保護資材の違いが日焼け果の発生に及ぼす影響

| 試験区 | 糖度 | クエン酸 (g/100ml) | 果皮色 a値 | 日焼け | |
|--------|------|-------------------|-----------|--------|------|
| | | | | 発生率(%) | 発生度 |
| 白サンテ区 | 12.9 | 1.18 | 17.2 | 6.7 b | 6.7 |
| 紙製テープ区 | 13.2 | 1.20 | 17.6 | 20.0 a | 8.1 |
| 対照区 | 13.4 | 1.21 | 17.5 | 20.0 a | 10.4 |
| 有意差 | n.s. | n.s. | n.s. | * | n.s. |

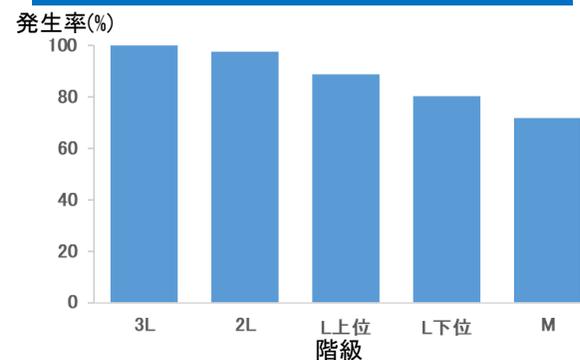
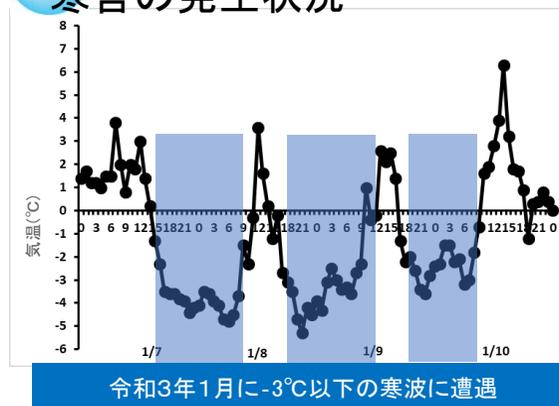
注)・南西方向の日当たりのよい果実を対象に調査

・7/19に果実保護資材処理 日焼けは10/9に調査 果実品質は3/22に調査

・発生度 = $\sum(\text{発生程度果数}/\text{指数}) \times 100 / (\text{調査果数} \times 3)$

- ・南西方向の日当たりの良い果実で2割程度発生
- ・白サンテの被覆により発生を軽減可能
- ・紙製テープは風雨により剥がれやすく効果がやや不安定
- ・降雨や強風の後には果実保護資材が外れていないか確認する

寒害の発生状況



階級ごとのす上がり果の発生率

注)
 ・伊台ほ場にて調査
 1/7 17:00 - 1/8 8:00
 1/8 17:00 - 1/9 8:00
 1/9 20:00 - 23:00
 に-3°C以下を観測
 ・寒波遭遇時、黒サンテを被覆
 ・階級はネーブル規格に準じ、L上位は7.7cm~8.0cm、L下位は7.3cm~7.7cmとした。

- ・露地栽培の7割以上の果実で、す上がりが発生(苦みもあり)
- ・階級が大きい果実ほど発生率が高かった
- ・収穫期までに-3°C以下となる園地は、露地栽培を避けるか、ハウスで補助加温栽培(最低温度2°C設定)を行う